



Shiretoko Nature Foundation

# ANNUAL REPORT

年 次 報 告

## 2023



## 知床財団のMission

私たち知床財団は知床半島をホームグラウンドとし、  
世界遺産知床の自然を守り、よりよい形で次世代に引き継いでいきます。  
野生動物やその他の自然環境の保全・管理に携わる組織として常に先駆者であり続け、  
人間が自然と親しみ調和していける社会の発展に寄与します。

## contents

はじめに	03
知床財団の12ヶ月	04
「知る」活動	06
「守る」活動	10
「伝える」活動	14
事業収支	18
いただいたご支援	19
賛助会員	20



### はじめに

2023年度は日本中でクマの出没や事故が相次いだ1年でした。知床も例外ではありませんでしたが、積み上げてきたスタッフの力と猟友会や関係機関との連携によって住民や観光客への事故無くシーズンを終えることができました。

観光面ではコロナと観光船事故による閉塞感が漂う中にありながらも、知床五湖やカムイワッカ湯の滝での適正利用の試みなどによって、緩やかにではありますが知床は本来の知床の姿を取り戻しつつあります。

このような時期だからこそ、私たちは地道な調査研究活動やそれに基づくインフォメーション、スタッフトーク、イベントなどによる発信を積極的に進めてきました。また、森林再生では4年ぶりに知床自然教室を開催することができ、100平方メートル運動地では個人や企業ボランティアによる森づくりの活動に加えて大学などとの連携による科学的な視点による森づくりを継続しています。

2023年度も多くの個人や企業の皆さまから心のこもったご支援をいただきました。これらのご支援は、私たちの使命である「知り、守り、伝える」活動の原動力になっています。このレポートを通して地域や関係する皆さまに活動の一端をお伝えすることができれば幸いです。

理事長 村田良介




# 知床財団の12ヶ月 ～2023年度の活動・出来事から～

2023

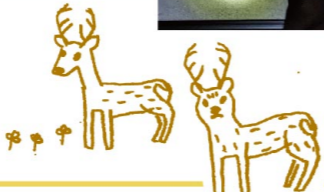
**4月**

- 知る サケ稚魚調査開始 オジロワシ営巣木調査  
ライトセンサス(ルサ・ホロボツ・イワオベツ)
- 伝える クマ端会議(斜里・ウトロ)開催




**5月**

- 知る 蝶類モニタリング開始 知床五湖植生調査  
100平方メートル運動地での鳥類センサス調査
- 守る クマ活草刈り 知床岬シカ個体数調整(5月-6月)  
春の森づくりボランティア
- その他 第1回理事会




**6月**

- 知る ルサ地区ヒグマ調査開始 イワウベツ川魚類調査
- 守る 町内会ヒグマ対策草刈り 初夏の森づくりボランティア  
知床五湖スレイン除去作業
- 伝える 知床びらきFINAL出展
- その他 定時評議員会・第1回臨時評議員会(書面)



**7月**

- 知る 先端部地区利用状況調査
- 守る カムイワッカ新制度開始 ヒグマ大量出没(7月-11月)  
路線バス増便事業(7月-8月) マイカー規制(7月-8月)
- 伝える 野生動物との接近防止啓発活動(7月・10月)



**8月**

- 知る ヒグマ餌状況調査
- 守る 夏の森づくりボランティア
- 伝える 第41回知床自然教室




**9月**

- 知る カラフトマス・サクラマス遡上調査 サシルイ川河川工作物改良効果調査
- 伝える ネイチャーキャンパス(9月-10月) 哺乳類学会100周年大会 シカ低密度集会発表  
斜里っ子自然教室 旭山動物園あにまるハッピーマーケット出展 ルサカフェ開催  
しれとこ産業まつり 出展 知床サスティナブルフェス開催(9月-10月) ヒグマ対策DAYキャンプ


**10月**

- 知る 秋のライトセンサス(小清水・ルサ・網走・ホロボツ・イワオベツ)  
イワウベツ川魚類調査  
ルサ川河川工作物改良効果(サケ遡上状況調査)実施
- 守る 公園管理計画改訂 接近違反距離の明確化 森の集い 植樹祭
- 伝える 大雪国立公園実習対応 カフェ湯ノ沢(10月・2月)
- その他 第2回理事会



**11月**

- 守る ヒグマ対策ゴミステーション「とれんべあ」増設
- 伝える クマ端会議臨時開催 ダイキン工業ボランティア



**12月**

- 知る オジロワシモニタリング調査会議
- 守る ルサ園地の今後を三社(環境省・羅臼町・知床財団)協議
- その他 第3回理事会




2024

**1月**

- 知る 流水定点観察自動撮影カメラ導入
- 守る 冬の森づくりボランティア(1月-2月)
- 伝える 世界遺産・知床の日「第3回しれとこ食の宴」に出展 世界自然遺産5地域会議

**2月**

- 知る エゾシカ航空カウント調査
- 伝える 北海道のヒグマ研究を考えるワークショップに参加  
ダイキン工業ボランティア 森林再生推進支部 若者の集い開催



**3月**

- 伝える 海洋環境推進費調査結果報告(斜里第一漁協、羅臼漁協)実施  
KINETOKO特別上映会(入館促進キャンペーン) 大雪国立公園セミナー対応
- その他 第3期ダイキン工業知床世界自然遺産地域保全事業協定式 第4回理事会



世界遺産5地域会議の様子

日本の世界自然遺産をより強く発信  
**！ 世界遺産5地域会議参加**

日本の世界自然遺産の第1号となる屋久島と白神山地は、2023年に登録30周年を迎えました。これを機に、国内5地域の世界自然遺産に係る関係者が連携を強化し、協働して政策提言等に取り組むことを目的として「世界自然遺産5地域会議」が2023年1月に発足しました。知床財団は、設立呼びかけ人として同会議に参画しています。

2024年1月に京都で第2回会議が行われ、5地域の自治体やNGOの代表など50名以上が集まりました。会議では「自然保護と暮らしの両立を目指した取り組み」をテーマとした先行的事例発表の場があり、知床財団からも発表を行ったほか、2025年に予定されている大阪万博への参加などについて議論が行われました。

企業との協力で活動を推進  
**！ ダイキン工業株式会社様より 継続してご支援をいただくことになりました**

知床世界自然遺産地域保全活動への支援として、ダイキン工業様より斜里町、羅臼町、そして知床財団の3者に対し2024年度から10年間で計2億円の寄付をいただくことになり、協定締結式が3月19日に執り行われました。

ダイキン工業様からは過去13年間森林再生事業やヒグマと人との軋轢を軽減する事業などに対し、ご支援をいただいております。今回、3期目となる協定を締結する運びとなりました。新たな協定のもとでは「生物多様性の保全」をキーワードに知床の自然を「知り、守り、伝える」活動に斜里町、羅臼町と力を合わせて取り組んでいく所存です。



第3回目となるダイキン工業株式会社様との協定締結式



## 1 川と海の変化を探る

# 知床の川に異変あり



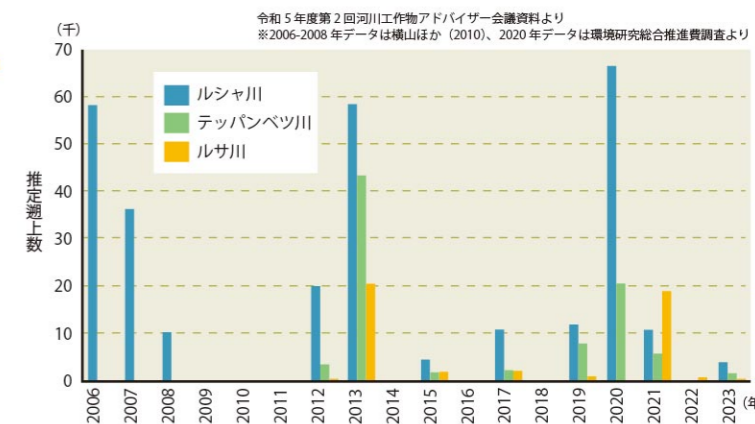
ルシャ川での調査の様子



夏のお盆を過ぎた頃から秋にかけて知床の川には、カラフトマスが群れをなして遡上します。例年、1年おきに遡上数が多い年と少ない年がおおよそ繰り返されてきました。地元ではたくさん遡上する年を「豊漁年」と言い、川では底が見えないほど多くのカラフトマスが見られてきました。しかしここ数年、異変が起こっています。豊漁年がなくなってしまったばかりでなく、少ない年でさえ減少傾向が続いています。

2023年、カラフトマスの遡上数を推定するための調査（北海道森林管理局、北海道受託事業）を斜里町のルシャ川、テッパンベツ川と羅臼町のルサ川で目視観察によって実施しました。調査は2012年から実施されており、豊漁年でも多かった年はルシャ川で約6万個体、テッパンベツ川で約4万個体、ルサ川で約2万個体でした。しかし、2023年はそれぞれの河川で約4千個体、約2千個体、約100個体と10分の1から数10分の1程度と、これまでの調査年で最も少ない結果になりました。

知床は国内を含む極東エリアでカラフトマスがまとまって遡上する南限付近にあたります。知床沿岸の海水温



河川別カラフトマスの推定遡上数

は他水域と同様に近年上昇傾向にあり、南限付近である知床への影響は特に大きく、来遊しにくい環境になっている可能性があります。知床が世界自然遺産に登録された理由になっている特異な生態系、陸域と海域を繋ぐ重要な役割を担ってきたカラフトマスの遡上数減少は、今後この地域の生き物に大きな変化を及ぼすかもしれません。例えば、カラフトマスを秋の重要な餌として利用しているヒグマをはじめとした哺乳類、オジロワシやオオセグロカモメなどの鳥類、河川内では卵を捕食するオシロココマやヤマメ、死体を餌とする水生昆虫など多種への影響が考えられることからモニタリングの必要性が高まっています。

## 2 モニタリングからわかること

# フレペの滝遊歩道周辺のチョウ類等昆虫相のモニタリング

フレペの滝遊歩道沿いを中心に、チョウ類のモニタリング調査を2023年度より開始しました。この調査は、月に2回程度の頻度でフレペの滝遊歩道周辺で確認されるチョウの種類と個体数を記録し、長期的にモニタリングすることで、遊歩道周辺の植生の変化を把握することを目的としています。知床では、エゾシカの生息数の急激な増加により、植生が劇的に変化しました。現在は、環境省等によるエゾシカの個体数調整により、植生が回復傾向以降にあることが確認されています。今後は植生の回復と共にチョウ類相が変

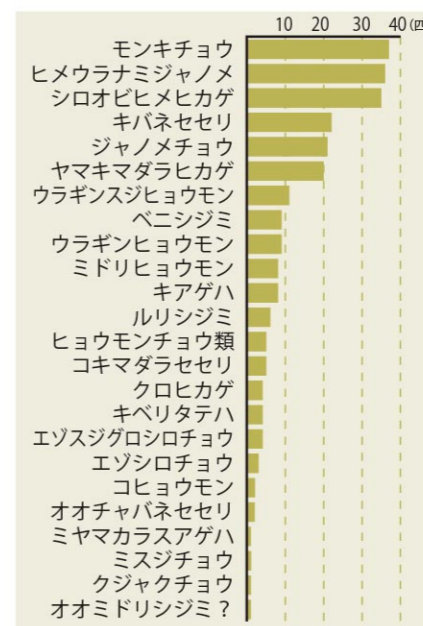
化していくと予想されます。また、知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画のモニタリング項目の1つである「陸上無脊椎動物（主に昆虫）の生息状況の把握」では、セイヨウオオマルハナバチの増加が見られないことなどが評価基準になっているため、マルハナバチの種類と個体数についても本調査で記録しています。2023年度は、5月から9月の期間中に9回の調査を実施して、23種255個体のチョウが確認され、マルハナバチについては、確認された全6個体中2個体がセイヨウオオマルハナバチでした。



調査の様子



ウラギンスジヒョウモン



確認個体数





### 3 希少種の正確な情報を把握するために

## オジロワシの繁殖状況調査

オジロワシ *Haliaeetus albicilla* は翼開長200cmを超える大型の猛禽類で、天然記念物かつレッドリスト2020で「絶滅危惧種Ⅱ類（VU：絶滅の危険が増大している種）」に分類されている希少種です。日本へは極東ロシア等から北海道や東北部に冬鳥として飛来するほか、北海道の一部地域で留鳥として繁殖しています。知床半島へも毎冬に多数が飛来し、さらに40つがほどの繁殖が確認されています。知床半島とその周辺に生息するオジロワシについては、長年地元の有志による生息状況の調査が行われてきましたが、2003年に「知床半島オジロワシ長期モニタリング調査グループ」が立ち上がり、斜里町と羅臼町の地元調査者と研究者が連携してオジロワシの繁殖状況とその動向を継続的に監視しています。知床財団も調査グループの一員として繁殖状況調査を毎年継続しており、2023年は斜里町と羅臼町でそれぞれ調査を行ったほか、調査グループの会議を12月に開催し、各調査者が得た情報、すなわち知床半島におけるオジロワシの新規営巣木や、未確認のつがいが存在するとみられる地域、崩壊した巣などの情報の取りまとめを行い、本種の営巣状況の最新情報を共有しました。この結果は知床世界自然遺産地域科学委員会・海域ワーキンググループ会議の資料として使われ、遺産地域の保全管理に役立てられています。当財団は今後も引き続き精力的なデータ収集を行うとともに、調査グループの円滑な運営について尽力していく予定です。



オジロワシ営巣調査の様子

### 4 バックカントリーを適正に運用するためのアンケート

## 知床半島先端部地区利用状況調査

羅臼町の相泊から北側の地域は「知床半島先端部地区」と呼ばれる場所となっています。この地区は、利用のための整備は進められておらず、まさに知床のバックカントリーといえる場所です。この厳しい自然環境や地形にあえて足を踏み入れることができる人だけが味わうことのできる景色や達成感が、そこにはあります。

知床財団では、この先端部地区に立ち入る方々に利用についてのアンケート調査を毎年実施しています。調査は7月と8月の各4日間、4：00～18：00まで終日相泊に調査員が滞在して、ここを通過する全ての方に聞き取りを行うというものです。

2023年度は計51組143名から回答をいただきました。調査の内容は、海岸トレッキングやシーカヤック、釣りなどの利用形態に関することや、ヒグマ対策・安全対策等についてです。2023年度の調査では、利用者の利用目的はトレッキングが20%、シーカヤックが14%、釣りが67%という結果になりました。このデータからもわかる通り、近年は釣りを目的とした利用が多くなっています。調査で得られたデータは、先端部地区の利用適正化や安全性の向上に活用されます。

相泊で利用者アンケートを行っている様子

### 5 命あふれる川を復元するために

10年 project

## 知床、海のバイブル誕生

知床は「北方や南方由来の多様な生物が生息、利用するエリアとして重要」という点が理由の1つとして世界自然遺産に登録されています。知床世界遺産地域には岸から3kmの海域も含まれていますが、海の多様性については登録時に十分な情報がありませんでした。私たちがよく知るサケやホッケなどの魚類、ケガニやミズダコ、エゾバフンウニなどの無脊椎動物以外に、知床の海にはどのような生物が生息しているのでしょうか。

そこで世界自然遺産登録翌年の2006年から海域の無脊椎動物を含む生息種に関する調査プロジェクトが、当財団を含め東京農業大学や北海道大学を中心に始められました（環境省受託業務）。磯での採集は集める生物が多岐にわたり、その後の分類や同定は大変です。まず、採集した生物を分類群ごとに分けるところから始まります。そして日本各地（14拠点）で活躍されているそれぞれの分類群の専門家へ標本を送りました。種同定の結果、新種や日本初記録種を含む299種を確認、リスト化し論文として取りまとめることができました。

北海道内にこれだけ多くの無脊椎動物がリスト化されている地域は、ほぼありません。調査開始から19年、論文化したことで多様な無脊椎動物によって構成される海の豊かさが明らかになりました。

この先ずっと、知床の海で調査をする研究者は必ず読むべき「バイブル」になるはず。また、変わり続ける知床の海の生物について、定性的ではあるものの構成種の変化について知ることができる資料ともなります。100年後、「2000年代はじめには知床にこんな生物がいたんだ！」とか「今普通にこの生物が2000年代初めにはいなかった！」なんてことがあるかもしれません。



磯での生物採集



採集した生物を分類群ごとに仕分ける





# 1 人とヒグマの共存を目指して

## ヒグマ大量出没年における知床の状況と対策



住民意見交換会

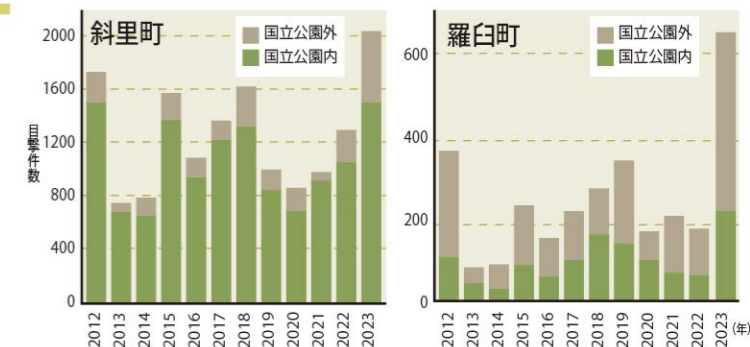


早朝パトロール

2023年度、知床半島の東西に位置する斜里町と羅臼町では、過去に例を見ないヒグマ大量出没が発生しました。夏から秋にかけてヒグマの主要な食物であるカラフトマスの遡上が少なかったことに加え、ドングリ（ミズナラ堅果）やハイマツの実の凶作も重なり、ヒグマにとって非常に厳しい一年だったと考えられています。そのため、少ない食べ物を探し求めるヒグマが通常よりも活動範囲を大きく広げたため、人間の生活圏や活動域へのヒグマの出没が例年にも増して頻繁に繰り返されたと推察されています。

斜里町のウトロ地区では、8月下旬以降、市街地や周縁部でのヒグマの出没が多発しました。特に9月から10月にかけて複数のヒグマが、遡上するカラフトマスやシロガケを求め、市街地の中心を流れるペレケ川沿いや河口周辺に出没を繰り返し、過去に類を見ない状況となりました。羅臼町内の各所でも、住宅や水産加工場のすぐ近くに姿を現すヒグマが例年以上に多く、家庭や加工場から出た生ゴミをヒグマが荒らすなどの危険な事例が20件以上発生しました。

2023年度、斜里町のヒグマ目撃件数は2,019件を数え、過去最多だった2012年度(1,763件)を大きく上回る結果



となりました。同じく羅臼町での目撃件数も551件と、過去最多だった2012年度(364件)を大幅に上回りました。また、ヒグマの捕獲頭数も斜里町内で96頭と、過去最多の2015年度(34頭)を大きく上回る結果となりました。羅臼町内での捕獲頭数も72頭とこちらも過去最多の2012年度(45頭)を超え、最多記録を更新しています。

このような状況の中、幸いにも住民や観光客がヒグマに襲われるなどの人身事故は起きませんでした。これは、捕獲だけではなく、電気柵の設置や草ヤブの刈払い、ヒグマ対策ゴミステーションの増設など、様々な手法を模索しながら長年に渡り継続してきた知床のヒグマ対策の成果のひとつであると考えています。

# 2 外来種による生態系の攪乱を防ぐ

## 知床五湖の1湖に繁茂する園芸スイレンの除去作業

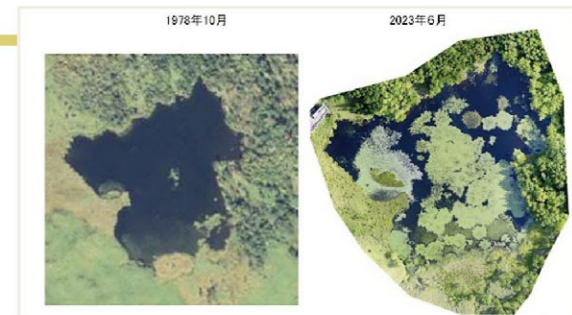


知床国立公園内にある知床五湖の1湖は、昭和初期に持ち込まれたとみられる園芸スイレンの繁茂が著しく、在来生態系への影響や、湖面に知床連山が映る特徴的な景観が失われつつあることへの懸念が大きくなっています。この課題は、知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議においても報告され、対策の必要性が指摘されています。

2023年は知床五湖の1湖において基礎調査を実施し、除去方法の検討及び地域住民の参画を想定した除去計画を作成しました。

次年度以降は、地域住民の参画を得ながら本格的な除去作業に着手し、実施にあたっては有識者の助言を得ながら、モニタリングと効果検証を並行して行う予定です。

一度持ち込まれた外来植物を除去し根絶するには、長い年月が必要となりますが、地域と連携を図り、根気強く取り組んでいきたいと思ひます。



1湖のスイレン繁茂の比較



スイレンと湖水面の様子



### 3 より安全に、より深く楽しむために カムイワッカ新制度導入

10年  
Project

カムイワッカ地区では、2021年より上流部の利用再開に向けた試行事業が行われています。試行の3年目となる2023年度は、より本格的な制度運用を見据え、全面的に利用方法が変更となりました。リスクのあるフィールドでの利用を可能とするため、これまで自由に利用されていた1の滝を含め、全域の立ち入りを有料の事前予約制とし、利用の質を向上させるため利用人数は1時間30名、1日210名までとしました。また、事前の準備や安全意識を高めるため、事前のオンラインでのレクチャー受講を義務化しました。

事業の実施にあたっては、正確で分かりやすい情報の提供、予約システムの充実化を図り、カムイワッカ専用の公式ホームページを開設しました。なお利用期間である93日間のうち、29日間は知床五湖以奥をマイカー規制とし、渋滞対策や環境配慮にも取り組みました。

知床財団では現地での利用者案内や安全管理のほか、ガイドの安全管理研修の実施やホームページに使用する素材のドローン撮影等を行いました。利用者アンケートからはアクティビティの満足度に対する高い評価を得ることができ、目標人数であった6,000人を達成することができました。



上流部に入る前のレクチャー



上流部へのアクティビティ

### 4 ヒグマとの軋轢を避けた公園利用を 国立公園内での ヒグマ対策の強化

遺産地域内の観光利用が多い道路や利用施設では、ヒグマと公園利用者との間で生じるトラブルや人身事故を防ぐため、指導啓発やルールの普及・情報発信を中心とした対策を進めています。近年では新たな対策として、野生動物との適切な距離感を普及する「知床ディスタンスキャンペーン」や、国立公園の適正利用の推進と道路沿線でのヒグマとの軋轢抑制を狙いとした「知床バスデイズ」によるアクセスコントロールの試行を行ってきました。これらの対策に加え、環境省や地域関係者の長年の努力によって、2022年にはヒグマへのつきまといや過度な接近を規制する自然公園法が施行され、2023年にはさらに規制行為の基準が明確化されたことで、課題の解決へ向けた大きな一歩を踏み出しました。



啓発のためのチラシ



知床ディスタンスキャンペーンのPR活動



### 5 川の生物相復元 手作り魚道を オショロコマ1尾が通過



イワウベツ川支流の盤ノ川に設置した「手作り魚道」の効果を調べるため、知床博物館および東京農業大学と共同で魚類調査を行いました。2023年10月の調査で、オショロコマ1尾が魚道を通して上流の川へ移動していたことが判明しました。このオショロコマは、同年6月の調査で魚道下流側で捕獲され、鱭(ひれ)に切り込みを入れてマーキングした個体でした。

嬉しい報告はまだあります。イワウベツ川本流に残存する治山ダム2基(北海道森林管理局所管)のうちの1基の改修工事が完了しました。残る1基は、これから3年かけてスリット状に切り下げられ、4年後には海から遡上するサケ類が通過できるようになります。この改修工事を待つダムの上流側に私たちが手がけた魚道があります。イワウベツ川の上流を目指し、魚道を泳ぎ上がるサクラマスが見られる日まで、あと一歩のところまで来ています。

魚道を通じたオショロコマ



手作り魚道の補修作業



魚類調査の様子



### 6 既存のものを活かした森づくり アカエゾマツ造林地の 樹種多様化を効率化する オリジナル手法

「しれとこ100平方メートル運動」の開始当初から植えられてきたアカエゾマツは順調に育ち、開拓跡地の森林化を促進しています。一方で、アカエゾマツ1種が立ち並ぶ多様性の低い森に遷移していることから、重機を用いて間伐し、人為的にギャップ(ほかの樹種が新たに入り込む空間)を造成して樹種多様化に向けた取り組みを進めています。ギャップには広葉樹の中型苗を植樹していますが、樹高が3メートル以上の大きな苗木を使うため支柱で支える必要があり、支柱を立てる手間と労力がネックになっていました。

2023年度は、支柱立ての省力化に繋がる新しい手法にチャレンジしました。間伐時に「断幹」という幹の上部(樹冠部)だけを切り落とす特殊伐採を行い、あえて残した根本から3mの幹を支柱として活用するという方法です。このオリジナル手法により、支柱を立てる労力は半減し、作業効率は格段に上がりました。

当財団の10年プロジェクトに掲げた森林化の手法を確立し加速させるという目標を見据えながら、知床らしい本来の森の再生を進めています。



アカエゾマツ林での広葉樹の植樹作業



断幹伐採した支柱を使って植樹





# 1 わたしたちの未来について考える

10年  
Project

## 知床サステイナブルフェスに 馬がやってきた！



馬搬の実演



馬と遊ぶ時間



あかしのぶこさんによる紙芝居

2023年も「Shiretoko Sustainable Fes」を開催しました。2018年に『知床アウトドアフィルムフェス』として知床自然センターを中心とするホロベツ園地の魅力向上を目指す祭典として始まったこのイベントは、現在は「サステイナビリティ(持続可能性)の気づき」をテーマに、知床の環境や暮らしについて考えたり、国立公園のより良い利用や保全のあり方を模索するイベントとして毎年秋に開催されています。

今回初の試みとなった「馬搬」実演は、大人から子供まで楽しく森づくりの歴史と現在の取り組みを体感できるメインコンテンツとして人気を博しました。

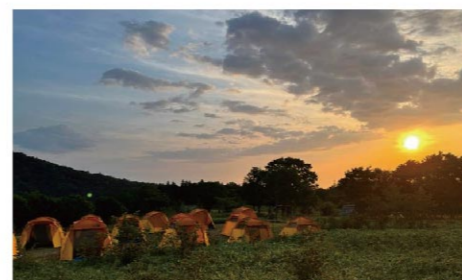
かつて開拓が行われていた知床では、当時たくさん

の馬が飼育されており、農耕や林業など暮らしになくはならない存在でした。しれとこ100平方メートル運動地での馬搬実演は、普段は重機が入り込めず、運び出しに苦慮する場所から、大きな丸太をものともせず運ぶ農耕馬の逞しさに圧倒されながらも、当時の光景に思いを馳せる味わい深い時間となりました。

森づくりの道・開拓小屋コースにある「開拓小屋」では、絵本作家あかしのぶこさんによる、知床の森づくりをテーマにした絵本「しれとこのみずならがはなしてくれたこと」の紙芝居公演が行われ、紙芝居を通じて知床の森の歴史を知ってもらうことができました。

# 2 知床の自然で、育て子供たち！

## 4年ぶりに開催！ 第41回 知床自然教室



キャンプサイトの夕暮れ



山や海で自然体験

知床自然教室は1980年から続くキャンプ行事で、「しれとこ100平方メートル運動」の次世代を育む森の交流事業です。新型コロナの流行により、しばらくの間中止を余儀なくされていましたが、2023年度は4年ぶりに開催することができました。全国から集まった小学4年生から高校3年生までの計33名が、知床ならではの多様な自然環境を体感する6泊7日となりました。「海の日」のプログラムでは潮だまりの前で10分間静かに待ち、岩や海藻の陰から現れる生き物を観察し、たたみ一畳程の小さな潮だまりの中で20種以上の生き物を見つけることができました。「川の日」にはイワウベツ川の支流白イ川を探検し、足をつけていられないほどの冷たい川を

渡り、道なき森を突き進んでゴールにあるカツラの巨木までたどり着きました。子供たち10名が手をつないでようやく一周できるカツラの木の大きさに一同驚愕していました。巨木を肌で感じることで自然の偉大さをしっかりと記憶に焼き付けてくれたと思います。「森づくりの日」には班ごとに広葉樹の大きな苗木を植える計画でしたが、残念ながら大雨警報が発令され急いでキャンプ地を撤収する事態となりました。4年ぶりの自然教室開催に慎重を期す大人たちとは対照的に、躊躇なく自然の中へ飛び込み順応していく子供たちを見て、次世代はこれからも続いていくと確信した1週間でした。





### 3 ヒグマと生きる未来を学ぶ

10年 Project

## 知床の子供たちの未来のために

知床では通学路でもヒグマに出会ってしまうことがあります。そんな場所では、横断歩道の渡り方を習うように、ヒグマにあったらどうするか？あわないためにはどうしたらいいか？ということ小さいころから学んでおくことがとても大切です。知床財団では斜里町ウトロの学校で2000年から、羅臼町の学校で2007年から、それぞれヒグマ授業を毎年行っています。授業では、ヒグマの着ぐるみを使ったヒグマ遭遇時のデモンストレーションやヒグマの生態を学ぶクイズなど、ヒグマについて楽しく、かつしっかりと学びます。知床ウトロ学校8年生や9年生は、1年生から習ってきたヒグマ授業の総集編として、下級生や外部の方へヒグマ授業をする側に立っています。

また、知床財団では、生まれ育った地では当たり前すぎてなかなか気づかない、身近で雄大な自然を知ってもらうために、秋の植物に触れたり、雪の上をスノーシューで歩いたり、季節ごとの自然を学ぶ環境教育なども行っています。



ヒグマの生態を学ぶためのレクチャー



季節ごとの身近な自然を楽しむ



スノーシューで探検



### 4 知床の新しい魅力を新しい形で伝える

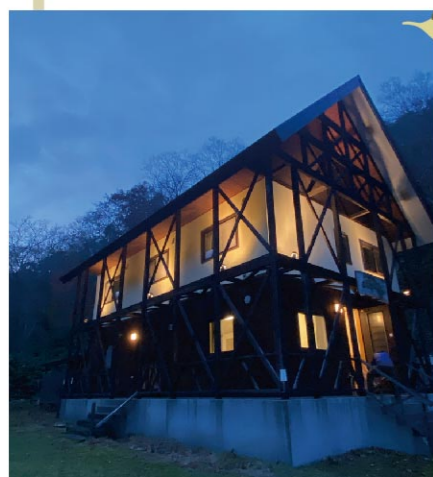
10年 Project

## 「Cafe湯ノ沢」開催

知床羅臼ビジターセンターから徒歩2分ほどの場所に、羅臼の間歇泉があります。噴出の間隔はその時々で変わりますが、最近では1時間ほどの間隔での噴出が多くなっており、羅臼町を訪れる方々に人気のスポットです。2023年度は、この間歇泉広場と広場の隣に立つ山小屋を活用したイベント、「Cafe湯ノ沢」を開催しました。間歇泉の噴出が見える広場にタープや椅子を設置し、のんびりと過ごしてもらえる空間をしつらえしました。また、山小屋では地域の人気ショップのケーキやカレーの販売を行いました。

間欠泉の噴出を見るだけでなく、ゆっくりと滞在してもらうことで、川のせせらぎや鳥の鳴き声に耳を澄ましながら、世界遺産知床の自然をより身近に感じていただくことができたのではないのでしょうか。イベントに来ていただいた方々からは、ぜひまた開催してほしいという声をいただきました。

間歇泉広場に居心地のよいカフェスペースを開設



### 5 空の旅からもヒグマに注意の呼びかけ

## JAL女満別到着便でヒグマに関する機内アナウンス

日本航空 (JAL) 北海道支社様のご好意により、女満別到着便でヒグマに関する普及啓発を目的とした機内アナウンスが行われました。対象路線および期間は、東京国際(羽田) 空港発⇒女満別空港着便：7月1日から8月31日まで、大阪国際(伊丹) 空港発⇒女満別空港着便：7月21日から8月31日まででした。

また、2023年度JALグループは、大阪(伊丹)⇒女満別線の就航20周年を迎えました。その記念イベントとして、伊丹空港発女満別行き便の搭乗口前で「知床財団によるヒグマブース」が設置され、JAL職員と一緒に搭乗を待つ乗客に対しヒグマに関する普及啓発活動を行いました。



空港のヒグマブースでの普及活動



乗客への啓発

### 6 知床を学びと発展の場に

10年 Project

## 企業の皆様で知床の森に賑わい

2023年度は知床の森づくり作業を中心に、株式会社ゴールドウインのサプライヤー企業による研修のほか、株式会社SUBARU、ダイキンHVACソリューション北海道株式会社など、複数社の企業研修を受け入れました。研修では、知床の自然や保全の経緯などを学んでいただいたのち、実際に参加者に森づくり作業に携わっていただきました。研修によっては、作業後に実際に自身の会社で取り組める自然保全活動や社会貢献活動などを考えてもらうワークショップも実施しました。普段の職場と全く違う環境に身を置き、全身で自然を体感しながら改めてSDGsや自然保全について考えるいい機会を得た、という言葉をいただきました。



森づくりやワークショップを取り入れた企業研修





# 事業収支

2023年度の経常収益額は、4億1,179万円でした。そのうち7割を事業収益が占め、その大半は行政機関からの受託事業による収入でした。

賛助会費や寄付金はもちろん、商品販売や講演や実習対応などの収益事業は、独自事業を実施するための貴重な財源になっています。

## 2023年度 決算データ

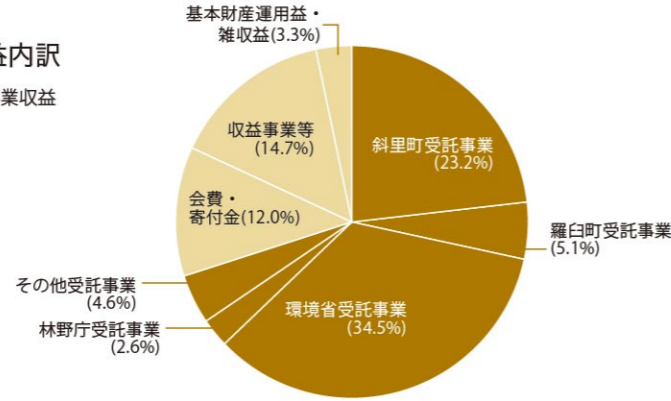
### 正味財産増減計算書

(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日) (千円)

科目	金額
基本財産運用益	1
事業収益	411,792
斜里町委託事業	95,594
羅臼町委託事業	21,177
環境省委託事業	142,031
林野庁委託事業	10,670
その他委託事業	18,775
賛助会費・寄付金	49,316
収益事業等	60,618
雑収益	13,610
経常収益計	411,792
事業費	408,019
管理費	9,117
経常費用計	417,136
当期経常増減額	△5,344
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△5,344
当期指定正味財産増減額	25,990
正味財産期末残高	174,070

### 経常収益内訳

■ 事業収益



### 貸借対照表 (2024年3月31日現在)

科目	金額	科目	金額
流動資産 A	156,026	流動負債 C	132,980
固定資産 B	203,514	固定負債 D	52,489
基本財産	45,000	① 負債合計 (C+D)	185,469
特定資産	134,787	指定正味財産 E	110,416
その他固定資産	23,727	② 正味財産合計 (E+F)	174,071
合計 A+B	359,540	合計 ①+②	359,540

## 2023年度 主な受託事業一覧

### ■ 斜里町事業

- 知床自然センター他管理業務
- 知床五湖水道施設等管理業務
- ヒグマ管理対策業務
- 自然環境保護管理対策業務
- ウトロ市街地電気柵更新業務
- 斜里町市街地鳥獣侵入防止柵維持管理効率化業務 (ウトロ地区)
- ヒグマDNAサンプリング業務
- ホロボツ園地植生調査業務
- しれとこ100平方メートル運動地森林再生推進業務
- しれとこ100平方メートル運動参加者名札制作業務

### ■ 羅臼町事業

- 知床羅臼ビジターセンター運営業務
- 知床世界遺産ルサフィールドハウス運営業務
- シレコプロジェクト推進検討業務
- ヒグマ管理対策業務
- 野生鳥獣及び自然環境保護管理業務
- ヒグマDNAサンプル採取業務

### ■ その他

- 北海道・サケ科魚類モニタリング調査委託業務
- 北海道農林土木コンサルタント(株)・シロガケ産卵床数等モニタリング調査業務
- パブリックコンサルタント(株)・羅臼川稚魚調査業務
- 高橋測量設計(株)・サケ科魚類モニタリング調査業務
- (国大)北海道大学・環境研究総合推進費研究共同実施事業 (海洋環境)
- 知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会・企画運営補助業務
- 知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会・カムイワッカ参加者用ヘルメットレンタル業務
- 知床ガイド協議会・知床五湖当日受付カウンター運営業務

### ■ 環境省事業

- 知床羅臼ビジターセンター維持管理等業務
- 知床世界遺産ルサフィールドハウス管理運営業務
- 知床野生動物保護管理対策業務
- 知床世界自然遺産地域ヒグマ管理に係る検体採取業務
- 知床国立公園ヒグマ対策に係るチラシ等作成業務
- 知床世界自然遺産地域科学委員会等運営業務
- 知床世界自然遺産地域気候変動に係る有識者会議運営業務
- 知床国立公園 (非積雪期) エゾシカ個体数調整実施業務
- 知床生態系維持回復事業エゾシカ航空カウント調査業務
- 知床国立公園 (積雪期) エゾシカ個体数調整実施業務
- 知床国立公園知床五湖利用調整地区管理対策等業務
- 知床五湖登録引率者養成研修等業務
- 知床半島先端部地区利用状況調査業務
- 知床世界遺産地域適正利用調査業務
- 知床五湖フィールドハウス運営管理等業務
- 知床五湖指定認定機関 (立入認定手数料)

### ■ 林野庁事業

- 知床地区国有林エゾシカ誘引捕獲等事業 (くくりワナ)
- 知床ルシヤ川等におけるサケ類の遡上数等調査事業

# いただいたご支援

お寄せいただきました寄付金は、6,352万円でした。ご支援いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

## 2023年度 寄付をいただいた主な法人 (3万円以上)

法人名	金額 (円)	提供品
ダイキン工業株式会社	5,000,000	
三井住友ファイナンス&リース株式会社	2,135,200	
株式会社SUBARU	1,606,000	
斜里町内企業	1,000,000	
株式会社知床ランドホテル	572,000	
株式会社アスティー	500,000	
ワイエスインターナショナル株式会社	149,051	
特定非営利活動法人 旭山動物園くらぶ	100,000	
羅臼アポロ石油株式会社	100,000	
有限会社アウトバック	100,000	
知床オブショナルツアーズSOT!	30,000	
株式会社コンサドーレ	30,000	
株式会社藤田工業	30,000	
株式会社SUBARU		パトロールカー無償提供
日本グッドイヤー株式会社		公用車のタイヤ無償提供
株式会社SOLMATE		自動翻訳機無償提供

## 企業とともに、知床のために

### ① コラボレーション商品の開発

賛助会員の企業を中心に、私たちの活動に賛同して下さる皆様とコラボレーション商品の開発に取り組んでいます。オリジナル商品の売上は独自事業のための貴重な財源となります。



「THE NORTH FACE」と知床財団がコラボレーションしてつくられたオリジナルTシャツ。



国立公園でのパトロールの際に使用する公用車 (株式会社SUBARU様より)

### ② 物品のご提供

株式会社SUBARU様よりパトロールカー、日本グッドイヤー株式会社様より公用車タイヤなど、知床財団の活動を支える物品をご提供いただきました。



知床の険しいフィールドで活用する公用車タイヤ (日本グッドイヤー株式会社様より)

写真提供 株式会社 SUBARU



# 賛助会員

知床財団の活動は、賛助会員をはじめとする多くのサポーターの皆様を支えられています。2023年度は新たに136名、25団体の皆様にご入会いただきました。皆様のあたたかいご支援に厚く御礼申し上げます。

## 2023年度 賛助会員の状況

個人年会員	個人終身会員	法人年会員	法人特別会員	総会員数
822名	1,105名	101団体	37団体	2,065件

## 2023年度 法人年会員 ※色字は斜里町・羅臼町の法人会員

法人名	所在地	法人名	所在地
株式会社ユートピア知床	斜里町	斜里通運株式会社	斜里町
株式会社須田製版(釧路支店)	釧路市	BlueM株式会社	網走市
ゴジラ岩観光	斜里町	民宿いしやま	斜里町
知床オプションルーツSOT!	斜里町	株式会社セキグチ	埼玉県
有限会社みさき水産	羅臼町	株式会社藤田工業	神奈川県
有限会社赤岩水産	羅臼町	有限会社阿保水産	羅臼町
羅臼漁業協同組合	羅臼町	高橋水産有限会社	羅臼町
ウトロ漁業協同組合	斜里町	Hair Salon YOCKEY	東京都
オコツク漁業生産組合	斜里町	羅臼アポロ石油株式会社	羅臼町
株式会社社中商店	羅臼町	東京シティ日本橋ロータリークラブ	東京都
有限会社木切別漁業	羅臼町	株式会社開発工業	斜里町
峯浜水産有限会社	羅臼町	株式会社JVCケンウッド・デザイン	東京都
有限会社知床ネイチャークルーズ	羅臼町	有限会社横山測量設計事務所	斜里町
株式会社秀岳荘	札幌市	株式会社CreativeFirst	千葉県
小川建設株式会社	羅臼町	株式会社CNS	北見市
ピックス株式会社	斜里町	どうぶつの内科・皮膚科クリニック	帯広市
田島公認会計士事務所	東京都	株式会社Bluedirection	神奈川県
サージミヤワキ株式会社	当別町	Rujipart Photography	倶知安町
株式会社小柳中央堂	北見市	株式会社ナゴウェブ	愛知県
小野建設工業株式会社	羅臼町	株式会社元木金物店	斜里町
株式会社ケミクル	羅臼町	ホクレン農業協同組合連合会	斜里町
知床ガイド協議会	斜里町	STORY LLC.	東京都
CSEG株式会社	東京都	株式会社RUNWAYS	東京都
ファームエイジ株式会社	当別町	株式会社Q.E.D.パートナーズ	神奈川県
羅臼石油株式会社	羅臼町	株式会社ライフクリエーション	中標津町
医療法人社団鶴翔会つるい整形外科	東京都	エモーションリンク合同会社	東京都
土橋工業株式会社	斜里町	株式会社アルビノ	東京都
安田商事株式会社	斜里町	株式会社AlbaLink	東京都
株式会社ふれあい	石狩市	株式会社アドアニモ	静岡県
有限会社川上水産	羅臼町	namiuchigiwa	神奈川県
斜里バス株式会社	斜里町	ブルースタイル沖縄株式会社	沖縄県
ワイエスインターナショナル株式会社	東京都	株式会社ピコラボ	福岡県
株式会社キムラシステム	札幌市	株式会社ベストアクティ	宮城県
株式会社アヤマ緑化工業	北見市	BELAY Inc.	東京都
アリス動物病院	神奈川県	ポップコーン株式会社	東京都
株式会社バリュープロモーション	東京都	株式会社アスティー	東京都
有限会社尾崎プロパティ	埼玉県	株式会社Agoora	東京都
斜里建設工業株式会社	斜里町	株式会社35design	札幌市
斜里第一漁業協同組合	斜里町	株式会社北真	別海町
有限会社雄美	千葉県	ベストセレクション株式会社	埼玉県
有限会社片山電気商会	斜里町	株式会社LOHASTYLE	東京都
しれとこくらぶ	斜里町	株式会社キューブコンサルティング	埼玉県
山洋建設株式会社	中標津町	株式会社トンデンファーム	江別市
山本電子工業株式会社	網走市	ゆきすきのくに合同会社	東京都
知床サライ	羅臼町	エファタ株式会社	東京都
株式会社丸あ野尻正武商店	斜里町	エレファントプラス株式会社	兵庫県
LIFEFORCE Entertainment 株式会社	札幌市	雨宮印刷株式会社	中標津町
ワンドリームピクチャーズ有限会社	旭川市	株式会社シモジマ	東京都
一般社団法人斜里青年会議所	斜里町	タレントスクエア株式会社	東京都
office albireo	斜里町	株式会社トイント	京都府
株式会社クリオ	東京都		

## 2023年度 法人特別年会員



## 会員の募集

私たちの活動を応援して下さるサポーターを募集しています。

皆様から募った会費や寄付金は、  
知床を未来につなげるために役立てられています。



### 個人

- 1年間応援 個人会員 5,000円/年
- 生涯応援 個人終身会員 100,000円/生涯

### 法人

- 法人特別年会員 100,000円/年
- 法人年会員 20,000円/年



入会用サイト

入会、寄付の方法については知床財団の賛助会員のサイトをご覧ください。寄付も随時承っております。

知床財団への会費、寄付は所得税、住民税、及び相続税における優遇措置を受ける対象となり、控除が受けられます。詳しくは知床財団ホームページ、または税務署にお問い合わせください。



知り



守り



伝える

## 組織概要

名称	公益財団法人 知床財団
設立	昭和63年(1988年)9月23日
設立者	斜里町・羅臼町
基本財産	4,500万円
所在地	〒099-4356 北海道斜里郡斜里町大字遠音別村字岩宇別531番地
目的	この法人は、知床半島及びその周辺地域の自然環境に関する調査・研究、自然保護の普及啓発などの事業を行い、もって広く自然環境の保全と利用の適正化に寄与することを目的とする。
事業	(1)野生動植物の調査・研究 (2)自然保護の普及啓発 (3)自然保護に関する諸団体との連携 (4)自然環境の保全管理及び公園施設などの管理運営受託業務 (5)その他この法人の目的を達成するために必要な事業
職員	44名(2023年3月31日時点)



### Annual Report 年次報告 2023

発行：公益財団法人 知床財団  
<https://www.shiretoko.or.jp>

発行日：2024年7月

Illustration：ETOBUNSHA

